

山岳地域における歩道整備イメージ例 < 非樹林帯における整備の場合 >

		—無整備、軽易な管理—	—路面、段差等処理—	—路面等土木的处理—	
		小	整備の程度(人為の度合)		大
利用者層	登山道	 <p>土壌が安定している箇所: 無整備あるいは刈り払い程度の管理による最小限の整備</p>	 <p>気象条件、踏圧による浸食がみられる箇所: 路面・段差等の処理</p>	 <p>大きく浸食が進む箇所や踏み出しによる植生破壊が進む箇所: 土木・砂防的な工法によりその進行を防止・安定を図る整備。</p>	
	探勝歩道		 <p>浸食のおそれのある箇所: 路面の整理、砂利敷等の処理</p>	 <p>浸食、植生の荒廃が進む箇所: 路面の被覆整備、木道、柵等による踏み出し防止や排水処理等。</p>	
	園路		 <p>平坦地、土壌浸食のおそれのない箇所: 道の明示・危険地域への立ち入り防止等のための縁石や柵程度の整備。</p>	 <p>ターミナル周辺、多数の利用者が集中する箇所: 路面の安定、歩道の範囲を明確にする柵等の整備</p>	
		← 継続的な維持、補修の充実	← 整備技術の向上	きめ細かな計画・設計・施工の推奨	→